

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100916		
法人名	医療法人社団親和会		
事業所名	グループホーム庄屋の里		
所在地	大分市大字中判田1950番地6		
自己評価作成日	2023年1月20日	評価結果市町村受理日	令和5年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に位置し、近くには小中高校とあり、元気で通う子供たちの姿をみて一日の始まりを感じています。
 日常では、ニーズに合った生活を支援するように心掛けていますが、楽で過ごすのではなくメリハリがあり、日常生活に多少の負荷がかかりながら生活することも大事だと思っています。レクリエーションや体操はもとより、役割を持って生きがいに繋がる支援にするために、掃除・洗濯・炊事に、庭の菜園の管理及び施設周辺の草取りなども行って頂いています。コロナ禍で外に出ることが少なくなっていますが、ニーズに応じて外出機会も設けるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・母体が医療法人であり連携が取れており、24時間安心して暮らすことが出来る。希望すれば施設での看取りも可能で、他の施設を紹介するなど柔軟に対応している。
- ・開設して3年の新しい施設なので職員の意識が高く利用者に寄り添った支援に心掛けている。
- ・日常的に近道を散歩したり、住み慣れた自宅付近をドライブするなど心と体の健康に配慮している。
- ・とにかく職員が明るく仕事を楽しんでいるのが伺える。
- ・デイケアの利用をうまく組み合わせることで身体機能維持に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念及び行動指針を玄関に掲げ、週1回の全体朝礼で唱和を行なっている。	玄関に法人の理念を掲示しており、朝礼で唱和するなどして職員に周知している。包括支援センターを通じて地域の20ヶ所程の施設のネットワークづくりを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で活動は少なかったが、清掃活動や近隣の学校実習の受け入れを行なっている。	月1回地域のゴミ拾いをしたり、高校の実習を受け入れなど地域とのつながりを継続しようと努めている。また散歩で会った近所の人との会話を心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学校実習の受入れや法人内新聞を地域や関係機関に発行している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日常生活や活動について報告し、ヒヤリハット及び事故報告等をしている。適切な意見や事業所としての取り組みについて意見を頂き反映できるように取り組んでいる。	この一年間で対面での開催が3回行われ地域の人や家族、包括支援センターの人の意見を聞いている。他の施設の良いところを聞いたりボランティアの情報をもらったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適切な運営に取り組むために、随時連絡を取り必要なアドバイスや方針を教えて頂いている。	市とはいつも電話で話を聞いている。担当者とは馴染みとなり制度の確認や疑問に対してのアドバイスをもらっている。保険の更新やオムツ券の申請など代行で市に度々行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスクマネジメント委員会(身体拘束防止委員会含む)を設置し、月の全体会議に身体拘束について協議を行っている。現況の支援が拘束に当たらないかを含め再確認をし、身体拘束ゼロの取り組みを行なっている。	まず身体拘束は行わないと言う事を前提に支援している。スピーチロックについては、その都度気が付いた職員がお互い注意しあっている。帰宅願望など不穏な行動を起こしたときは寄り添ってゆっくり話を聞いたり一緒に歩くなどしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リスクマネジメント委員会(虐待防止委員会含む)を設置し、月の全体会議で協議している。また、e-ランニングを活用し学習会を行なっている。		

事業者名:グループホーム庄屋の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な学習会及びe-ラーニングを活用し学習会の機会を設け、必要時には法人内の専門職にアドバイスを求め支援を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時に、契約書や重要事項等説明を行い入居までに確認したいことは、電話対応をしている。また、入居時前に再度契約等必要な内容の説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々に担当職員を配置し、入居者や家族の意見を聞けるようにし、会議で協議している。また、直接意見が言えない方については、意見箱の設置をしている。	本人とは担当職員が日々支援する中で話を聞いて会議で話し合っている。家族からは面会時に要望など聞いている。今はドア越し面会であるが、早く直接会いたいという意見が多くコロナの状況を見ての判断となる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各事業所が協議した内容が、法人全体での会議に反映できるように、代表者が出席している。	全体会議で聞いているが言いにくいことは業務する中でも直接聞いている。意見を言いやすい雰囲気づくりがなされている。有給休暇は希望に沿って取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度があり、システムを活用し評価を実施。その後、評価に基づいて個々の面談を実施している。また、就業時間ないで帰れる仕組みづくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で、外部研修は少なかったが、認知実践者研修は参加している。また、法人内ではe-ラーニングを活用し個々の学習ができるようにし、必要に応じてテストも実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ法人内での週1回の交流を行なっている。他事業所とは今後の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当職員を決め、傾聴を行い統一した支援が出来るようにしている。関係性が作れるように担当であることを伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は、ご家族との面談を実施し、要望や不安の解消が出来るように情報共有に努めている。また、ご家族が相談出来るように面会の頻度等を多くして頂けるようお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所で出来ること出来ないことを伝え、事業所の現状を隠さず伝えることで、本人、家族の思いを汲み取り、必要があれば、他事業所の紹介も行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何もなくても一緒に座りテレビを見たり、会話がなくても自然体でいられるようにしている。時には冗談や昔話をしながら生活が出来るように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会を多くして頂くために、メールや電話連絡を実施している。コロナ禍で慎重になっているが、一緒に外の散歩や短時間で会食や人が多い場所を避けることで外出の機会が持てるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が面会に来られた時や電話があった場合は、ご本人及びご家族に確認を取って面会が出来るようにしている。また、住んでいた場所や自宅に方面にドライブに行くなどしている。	玄関のドア越しでマイクを使って面会をすることが出来る。医療デイで友人と会っている。またデイに友人が来ているのを知りデイに通うことになった利用者もいる。住んでいた地域をドライブするなどして馴染みが薄れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置に工夫し、お互いに助け合える環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に病院には面会を実施している。他施設や在宅等であれば、家族の相談によって対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や定期的にご本人やご家族の意向は確認し反映できるように取り組んでいる。また、生活する中で意向の変化に気付けるように傾聴や表情などで確認できるように努めている。	契約時家族より聞き取りを行い、得た情報を全職員で共有している。ふだん支援する中で何気ない話や雰囲気、行動などから思いや希望などの把握に努めている。家族からも希望を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報作成時に、ご本人、ご家族に聞き取りを行いこれまでの状況が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムなどが分かるように記録に残している。毎朝夕の申し送り時にも通常と違った状況も含め周知できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が、ご本人の状態把握に努め、会議で共有し意見の交換を行なっている。その内容を基にご本人、ご家族の意向を伺い介護計画の作成を行なっている。	利用者に担当制を設け担当職員が利用者の状態や意向などを把握しユニット会議で話し合い他の職員の意見も踏まえプランに反映している。状態が変わった時などは家族の意見を聞き、プラン変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施した内容については記録に残し、支援した内容が良かったのか、どのような声掛けで実施できたのか、できなかったのか等を共有している。見直しが必要な方については、会議で協議し反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付き添いをはじめ、買い物支援やふるさとドライブや自宅に一時帰宅の支援など行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に小中高校があり、運動会の見学や公民館活動などの参加を計画しているが、コロナ禍で実施が出来ていな。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を行い、かかりつけ医の指示に従い専門医の受診を行なっている。また、専門医等の受診に際しては、本人、家族の希望を確認している。	これまでのかかりつけ医を希望することが出来る。協力医は定期的な訪問診療や緊急時の往診などがあり、ほとんどの人が利用している。専門医受診時は家族が行けない時は職員が同行している。訪問歯科もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐している看護師に相談が出来るようにしている。また、夜間帯や看護師不在の場合は、関係医療機関に相談できるように体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院に連絡し、状態確認に努め、早期退院ができるように、情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化及び終末期になった場合の本人、ご家族の意向を確認している。状態の変化があった場合は、医療機関との連携をしご本人ご家族の意向の確認をしている。	入居時に重度化した場合の希望を本人家族から聞いている。状態が変わればその都度確認を行っている。看取りの体制を取っており経験もあり全職員で支援して家族から感謝されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置をし取扱いについても定期的実施している。また、緊急時に対応するため、マニュアルも作成し、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。特に人数の少ない夜間を想定し、法人各事業所が応援できる体制を構築している。また、地域消防団との合同訓練を予定していたがコロナ禍で実施ができなかった。	法人全体で年2回避難訓練を行っている。火災・夜間想定で施設内の安全な場所に利用者を避難させている。施設前の川が氾濫しそうな時は高台へ避難したり、直ぐに法人の他の部署より応援が来るなど法人内での協力体制が確立している。備蓄は施設内に3日分ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の気付きが出来るように、全体会議や法人内研修会及びe-ランニングを活用して勉強会を実施している。	倫理の勉強会が法人内で行われている。言われて嫌なことは言わないことを心掛けている。職員一人ひとりに気を付ける目標を持たせて取り組んでいる。居室のドアは閉めており中から鍵をかけることが出来る。ノックし声を掛けて入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができるように傾聴をしている。難しい方に対しては、ご家族に確認や生活習慣から希望に添えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の思いやペースで支援に心掛けているが、生活にメリハリや多少の負荷がかかりながら生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床就寝は、衣服の交換を出来るように声掛けや支援を行なっている。男性は髭剃りの声掛け、女性は、髪の毛の手入れの声掛けや定期的に散髪に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作成し、毎日の食事内容が分かるようにしている。また、季節を感じていただけるように季節のおやつ作りを一緒に行なっている。	法人の厨房より料理が運ばれてくる。季節に合った食材を使い行事食も提供されている。月1回おやつ作りがあり、プリン盛り付けを一緒に行うなどにぎやかなおやつ作りとなっている。年2回のご飯づくりを計画している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	表を作成し、食事、水分量のチェックをしている。少ない方に関しては、ご家族から提供して頂いたお菓子やジュース事業所で用意している飲み物等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は、毎回口腔ケアの声掛けや出来ない方については実施している。また、定期的に協力病院の歯科医に検診をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを確認しトイレの声掛けや誘導を事前に行なっている。夜間は、安眠できるように極力声掛けは減らすため、就寝前のトイレ誘導を実施し起床時はトイレの声掛けをしている。	自分でトイレに行く人には職員がついて行ってパット交換等チェックしている。落ち着かない様子を見たら声掛けしてトイレへ誘導している。夜間は安眠を優先して大きいパットを使用している。オムツの人も排便時はトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動やマッサージを行なっている。食事に関しては、管理栄養士が適正な栄養量で提供し、牛乳やヤクルトの乳製品の提供もしている。また、決まった時間にトイレに座るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回で曜日を決定しているが、体調や必要性に応じて回数や曜日の変更を行っている。また、拒否が強い方には家族の協力も得ながら支援を行なっている。	週2回の入浴であるが希望すればいつでも入浴することが出来る。時間も選べる。入浴を拒否する時は時間や声掛け方法を変えたりしている。家族に手伝ってもらう事もある。入浴剤を入れて気分転換にもなっている。脱衣場や浴室にエアコンがあり快適に入浴をすることが出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活の状況を確認し、起床就寝を尊重し食時間も合わせて提供している。また、夜間帯は安眠出来るよう排泄状況で極力声掛けを少なくしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ユニット処方箋ファイルを作成し、いつでも確認ができるようにしている。また、薬の変更や体調の変化があった場合は記録に記載し、看護に相談し、医師との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事、洗濯、掃除を一緒に行って頂いている。男性は、菜園で野菜作りを一緒にして頂き、それを調理して食べたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で希望に応じた支援は出来ないが、季節に応じてドライブに出かけたり、近隣の散歩や自宅周辺までふるさとドライブを行なっている。	自宅近くまで出掛けたり、車から降りないドライブで外の景色を楽しんでいる。敷地内はいつも散歩して気持ち良い空気を吸っている。施設の前の川沿いに桜並木があり春は花を見ながら散歩が出来る。テラスがあり、いつでも自由に外に出て外気浴を楽しむことが出来る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の持ち込みは禁止しているが、月当たり定額の金額を使えるようにしており、買い物やドライブに出かけた時に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話の希望があれば取次ぎをしている。また、年1回ではあるが、年賀状を皆で下記、家族や親戚に近況も含め送っている。携帯電話を使用できる方は持ち込み可能で、通話の支援も行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りやプランターに花を一緒に植えたりすることで季節を感じて頂きけるようにしている。また、緑の植物やソファを配置している。	ホールの大きな窓から明るい日が差し込み、テラスでは山々をのんびりと眺めながらくつろぐことができる。壁には毎月利用者と一緒で作る貼り絵が飾られている。空気清浄機が設置され、室温も調整されており快適に過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多目的室があり、一人で過ごす時間や他の方と過ごしたり、ユニット共同の活動等を実施したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持込自由としている。なじみのある家具や飾りが出来るように、本人家族と協議している。中には、仏壇を持込毎朝、ご飯と水の提供もしている。	自宅より馴染みの物をもって来て飾ったり、毎朝仏壇の水を変える人もいる。個性ある部屋作りとなっている。利用者の動線を考えて家具やベッドを配置して安心して過ごせるよう工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印を付けることで、居室、トイレ、自席がわかる様に工夫している。必要があれば、居室の変更居室内の模様替えを行なっている。		